

御湯殿上日記

四十九

慶長五年



和書門類	一五七三〇號
函	一三五函
架	一三架
冊	五五冊

内閣文庫	和書類
一五七三〇號	五五冊
一三五函	二〇架

内閣文庫	番號	和 15730
	冊數	55 (49)
	函號	162 235



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

又
七
日

このころ先づはのこるし一筋の西人まで何かが
さしらのめんきやう月とてさんちりんそくはきうく
やあうしーとまー流ちやくささいおんー中山おのた
大毎ふせひきのんと人町のがねなり

六
日

ちるさあふくことあて西のうめさくしー西の月
こんじひーさるあしりる井のりるんあきんあは
右大毎さまのうめめのくはがねPのくちまでらんそく
のーしーなうふらんしーあきん月

七
日

このころ先づはのこるし一筋の西人まで何かが
さしらのめんきやう月とてさんちりんそくはきうく
やあうしーとまー流ちやくささいおんー中山おのた
大毎ふせひきのんと人町のがねなり

十七日

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a diary entry for the 17th day. The text is written in a cursive style and spans several lines across the right page.

十八日

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a diary entry for the 18th day. The text is written in a cursive style and spans several lines across the right page.

十九日

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a diary entry for the 19th day. The text is written in a cursive style and spans several lines across the right page.

二十日

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a diary entry for the 20th day. The text is written in a cursive style and spans several lines across the right page.

二十一日

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a diary entry for the 21st day. The text is written in a cursive style and spans several lines across the right page.

あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも

廿二日
ちか

中のめんきふ

あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも

廿四日
ちか

あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも
あつてはうらやましく思ふも

廿六日
ちか

はむさう乃ほむさういなり四人敷ハ多夜大くち夜さう
あふ夜にめんよのいけのうちよのえん意よあいにちり
らま丸ちゆえ新ちゆえゆらういしー山ーなるもくいふや
う中のめんち大弁のさむねさういおのゆるあさう井
しー乃さうめんまいさういあまらういさういさのさち
あさういさういめんよのう大はさういさういさういさうい
てかおさうい

六六日

いんまけ及ゆくまけ及なりーあふまきつあふさういさういさ
くはら

六七日

いんまきんの形百まんあふさういさういさういさういさ
ちやうらうさういさのちやうらういさういさういさういさ
あういさういさういさういさういさういさういさういさ
いさういさういさういさういさういさういさういさういさ

六八日

あさういさういさういさういさういさういさういさういさ

六九日

五
一
田より田をいひなせおひつこくしんせ

くまうをんおひつこく

二月
あまの月ひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく

一
二
日

あまの月ひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく

二
三
日

あまの月ひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく
おひつこくおひつこく

三
四
日

あまの月ひつこくおひつこく


~~~~~

十日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

十一日

~~~~~

十二日

~~~~~

十三日

~~~~~

十四日

~~~~~

~~~~~

十五日

~~~~~

~~~~~

~~~~~


廿四日 ちん糸 人ろー 花のまきら
しーら 夕のふんち ちーら

十六日
あつ

廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

十七日
あつ

しーら 夕のふんち ちーら

十八日
あつ

しーら 夕のふんち ちーら

十九日
あつ

廿一日 廿二日 廿三日 廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

しーら 夕のふんち ちーら

しーら 夕のふんち ちーら

しーら 夕のふんち ちーら

廿日
あつ

しーら 夕のふんち ちーら

廿一日
あつ

しーら 夕のふんち ちーら
しーら 夕のふんち ちーら
しーら 夕のふんち ちーら

二月

一
百廿四

あさひさる月らあさるれいんまけよのたか弁いよのしん
まはるゆあさるはあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる

あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる

二
百廿四

あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる

三
百廿四

あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる
あさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさるあさる

六
と那ら事なり

六七
四

天よりちくやうけりしきりし大くちまきしすけの志
人しちやまはるんしちちゆかひのゆくとるん
くはなちゆえんし人四つかぬりき并
ちゆかひのゆえんし人のゆえんし人
さうのゆえんし人ゆえんしゆえんしゆえんし

六八
四

六九
四

えんゆのゆえんしゆえんし

四月

一
四

ねんし月よりゆえんしゆえんしゆえんしゆえんし

きりぎりすのちきりぎりすのしん一ねりしひのよき

七
十日

はこみんよのな

八
十日

はこみんよのな

九
十日

はこみんよのな

はこみんよのな

はこみんよのな

十
十日

はこみんよのな

十一
十日

はこみんよのな

はこみんよのな

はこみんよのな

はこみんよのな

はこみんよのな

十六日

かおちゆうもんかろしんせいのほむんせいのしんせいの
しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの
しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの
しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの
しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

十七日

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

しんせいのしんせいのしんせいのしんせいのしんせいの

うきとてゆきなるはきんぬんうけうけり人ちけのーやうに
くひちてんまそけうけふめのみげんくせんふまやうけと
まにまにうけのうきとまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

ゆきぬいそまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
ろくまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに
まにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまにまに

十二日

えんけんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

十三日

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

十四日

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

十五日

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あんとくしんあふりしけのいさかきまふりちのいさ

あけくさうきふさきしつりあつてあつてあつて

少人数までのおもてなしをたのむやふたり

よへてしつりしつりしつりしつりしつりしつりしつり

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

十六日

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

十七日

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

十八日

いんまをたてしこしちりせしうあうちあけの
うらなふたふたのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの

十九日

いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの

二十日

いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの

廿一日

いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの

廿二日

いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの
いんまのうらなふたふたのうらなふたふたの

六六
うら井及うら井の中にあんきううら井の夕々しくうら井の

せやね

六七
四

うら井一ちや井より山をへ一おまうとせうめんよりあま
とておまうえんげめん及なるけのすまううら井の
とておまう

六八
四

あまうら月うら井及なるうら井の夕々しくうら井の
とておまう

六九
四

うら井の夕々しくうら井の夕々しくうら井の夕々しく
とておまう

七〇
四

うら井の夕々しくうら井の夕々しくうら井の夕々しく
とておまう

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

二
目

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

三
目

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

四
目

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

五
目

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

六
目

ふりつら月にはのこるにんが女はさうせん
つらんやそ中かこころはさうあり

九
日

Handwritten text in cursive script, likely a date or entry.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

十
日

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

十一
日

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

十二
日

あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ

八月

一
二四

あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ
あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ
あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ
あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ

二
二四

あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ
あつたてのうらみはなほあつたてのうらみ
くまのうらみはなほくまのうらみ

八
十日

えんきめ入りのまうりちん
かこころいれんあま
く

九
十日

えんきめ入りのまうりちん
かこころいれんあま
く
あまのまうりちん
かこころいれんあま
く

十
日

えんきめ入りのまうりちん
かこころいれんあま
く

十一
日

えんきめ入りのまうりちん
かこころいれんあま
く

十二
日

えんきめ入りのまうりちん
かこころいれんあま
く

しつおさちうていついまりうにわけあつてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて

十七日

えけんよのうつとあのはあつてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて

十八日

えけんよのうつとあのはあつてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて

十九日

えけんよのうつとあのはあつてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて

二十日

えけんよのうつとあのはあつてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
つとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて

廿六日

朝霧の香く花に折れけし一折をよみし昔よりつらう
うらまはしうきく人さへ死一折をよみし

廿七日

又つらき人さへうらまはしうきく人さへ死一折をよみし

廿八日

朝霧の香く花に折れけし一折をよみし昔よりつらう
うらまはしうきく人さへ死一折をよみし

又つらき人さへうらまはしうきく人さへ死一折をよみし

廿九日

朝霧の香く花に折れけし一折をよみし昔よりつらう
うらまはしうきく人さへ死一折をよみし

又つらき人さへうらまはしうきく人さへ死一折をよみし

朝霧の香く花に折れけし一折をよみし昔よりつらう
うらまはしうきく人さへ死一折をよみし

廿五日

おののちやうと人きううんくのりんくうのちのようりう

廿六日

ちやうとくきう一ぢまう

廿七日

ちやうとくきう一ぢまう

ちやうとくきう一ぢまう

ちやうとくきう一ぢまう

ちやうとくきう一ぢまう

廿八日

ちやうとくきう一ぢまう

廿九日

ちやうとくきう一ぢまう

ちやうとくきう一ぢまう

甲

十月

一
〇

於此月廿三日... 申中... 入...

二
〇

...

三
〇

...

...

四
〇

...

五
〇

...

さう月こころの女中おこころうつこころあつたら井夜つらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

十九日

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

二十日

六二〇
~~~~~

六二〇  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

六三〇
~~~~~

~~~~~

~~~~~

六四〇  
~~~~~

~~~~~

六五〇  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

六六〇
~~~~~















~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

十日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

十一日

~~~~~

十二日

~~~~~

十三日

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

十四日

~~~~~

十五日



十八日

きりぎりすのこゝろに  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを

十六日

あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた

十七日

あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた

十八日

あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた  
あはれなるを  
まはるるはなはた



あつてけりては年なり准后如女ち〜中御りより  
ゆふやけり中御りのさま大申し三人をまつけよ申九人  
けり

十九日

今うまつたはせん〜そいふよう〜あ〜か〜い〜  
中のい〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
からい〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
のい〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
け〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

廿日

い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

廿一日

い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜







中絶その中お夜つらひ糸取ら井取もつらひおこし

もさうしつらおそそそつらつらつらつら

廿七回

阿比井一恵人のつらつらつら

廿八回

阿比井一恵人のつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつら

廿九回

いばつらつらつらつらつらつら

阿比井一恵人のつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつら

三十回

つらつらつらつらつらつら

十二月







えきくしつちの物らつ四月二えん人きくふまら

九  
きり

大西此人より四月の四月月らくはくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

十  
きり

くくくくくくくく

十一  
きり

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

十二  
きり

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく











ひのさきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

けう

十八日

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

十九日

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

二十日

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる

廿一日

さきくさく人のまけいのさきくさく人のまけいのさきく人なる







のほかにせんしう此年通てなすまゆ人のほけくせんせん  
たいてんやうおほむらむりくせんせんくはくせん  
おちきりけりてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてんてん

廿二日

廿三日

あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち

廿四日

新美のぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち  
あつちのぼつちあつちのぼつちあつちのぼつち

廿五日











